

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900694
法人名	医療法人岩村外科胃腸科
事業所名	グループホームよしの里
所在地	愛媛県】宇和島市吉田町魚棚20番地5
自己評価作成日	平成25年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> 利用者、また利用者の家族と信頼関係が築けていけるよう職員一人一人努めている。 理念に沿って家族とも共有しながら、支援に取り組めるようにしている。 面会者や地域住民の方にお会いする時には笑顔で挨拶するように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ●事業所では、「地域との風通しを良くする」ための取り組みをすすめておられる。伊予銀行や公民館のロビー展には、利用者の作品と活動パネルを展示され、事業所の様子を紹介されている。公園の清掃には、利用者も参加して地域の方達と一緒に掃除をされており、自治会の方から、「よしの里さん」と呼んでもらっている。吉田高校のバレー部の生徒達が災害学習の一環で来られた際には、事業所内を見学されたり、利用者ともふれ合い、「何かあったら来るよ」と言ってくれている。又、同高校の家庭クラブの生徒達の来訪もあり、高齢者向けのメニューを作って食べさせてくれたりする。 ●利用者のご自宅の近所の方が、秋になると利用者宅の柿の採り頃を知らせてくださり、職員と一緒に収穫に行かれる。その柿を使って、利用者ご本人が職員に「渋抜き」を教えてくださいとくださることが恒例となっている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームよしの里

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)
氏名 中村竹子

評価完了日 25 年 3月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「家庭的な環境のもとであたり前に普通の生活を」の理念について職員一人一人が理解している。家庭ならどうするだろうか？と考えながら理念に沿ったケアに努めている。	
			(外部評価) 事業所では、理念をもとにして、ホームを「普通の家」と捉えたケアを目指しておられる。たとえば、起床時間や朝食の時間についても、利用者個々の生活習慣や体調等によって違いがあり、それぞれに対応することが「あたり前のこと」と捉えて、ケアに取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの公園の掃除や地方祭の旗立てなど地域の方と共に行っている。また年に2回避難訓練の際、地域の方々にも参加して頂いている。年2回発行する「よしの里だより」をご近所に配布したりして交流を深めている。	
			(外部評価) 事業所では、「地域との風通しを良くする」ための取り組みをすすめておられる。伊予銀行や公民館のロビー展には、利用者の作品と活動パネルを展示され、事業所の様子を紹介されている。公園の清掃には、利用者も参加して地域の方達と一緒に掃除をされており、自治会の方から、「よしの里さん」と呼んでもらっている。吉田高校のバレー部の生徒達が災害学習の一環で来られた際には、事業所内を見学されたり、利用者ともふれ合い、「何かあったら来るよ」と言ってくれている。又、同高校の家庭クラブの生徒達の来訪もあり、高齢者向けのメニューを作って食べさせてくれたりする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、職員による研修報告を行ない学んだ事を地域の方に伝えたり、中・高生が授業の一環で来られた際、認知症の人への理解や支援の方法などを説明している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で事業所の活動の活動報や職員研修の内容を報告すると共に利用者にも参加して頂きご意見を頂きながらサービスの質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 奇数月の第二木曜日を会議開催日と決めておられ、1階ユニットのフロアで午後から開催されている。ご家族にも1名ずつ交代で参加をお願いされている。会議時には、事業所からの活動報告や災害対策について話し合ったり、メンバーとともに成年後見制度等について勉強等もされている。市の担当者からは、「災害が起こって最初に駆けつけてくれるのは地域の消防団なので、事業所内を一度見学してもらってはどうか」とアドバイスをいただき、今後、依頼される予定となっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 管理者はネットワーク会議に参加し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。また運営推進会議に出席して頂き、介護保険等説明していただいている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、市の介護事業所が集まるネットワーク会議に参加して、他事業所とともに研修や交流をされている。顔見知りになった事業所とは、その後、行き来して利用者も含め、交流が始まっている。地元の介護相談員の方とは、買い物時に顔を合わせることもあり、よく声をかけてくださる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ミーティングや研修会で学ぶ機会をつくり、鍵をかけない工夫をしたり、禁止されている具体的な行為について積極的に話し合っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、具体的に「どういうことが拘束になるのか」ということを内部研修時に説明されたり、又、ミーティング時には、「命令や制限する言葉はやめよう」と話し合い、拘束のないケアを目指して取り組まれている。ベッドからの立ち上がり時、転倒が心配される方には、布団に鈴を付けていたり、「立つ時にはベルを押してください」と大きく書いたボードを近くの椅子に置いて、ベルの音で職員がサポートできるようにされている。居間で、転倒の心配がある利用者には、よるけた時に手を貸せる距離に、職員がいるようにして支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修やミーティングなどで繰り返し学ぶ機会を作って一人一人が虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加して職員一人一人学ぶ機会を作っている。また参加して学んだ事をホーム全体で理解に努めている。家族様から質問あれば援助できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、契約前に本人や家族と十分な時間をとり説明している。ホームの中もよく見て頂き、雰囲気を感じて頂き、理解、納得して頂いた上で契約を行っている。解約の際は話をよく聴き誠実に対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や家族が面会に来られた際に意見や要望をお聞きするようにしている。玄関には「ご意見箱」を設置している。また家族が気軽に意見が言えるような雰囲気作りに努めている。出された意見や要望については、職員間で話し合って改善するよう努めている。 (外部評価) 門が閉まっている時間は、裏口から入れるようになっており、ご家族の都合のよい時間に訪問できるよう「いつでもどうぞ」と伝えておられる。事業所では、年末大掃除・建物周囲の掃除・個別の部屋掃除や衣類の入れ替え・誕生日等、ご家族の都合のよい時に協力いただけるよう案内をされている。利用者の日頃の活動やご家族との写真をポストカードにして、一言メッセージを添えて送付しておられ、ご家族から喜ばれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営管理者が立会いのもと、毎月のミーティングや年2回の全体ミーティングを通して、職員の意見をひろい上げる機会を設けている。	
			(外部評価) ぬり絵や調理の得意な職員等、それぞれの得意分野で力を発揮できる仕組みを作り、職員が意欲的に活動でき、職員同士で協力し合えるよう取り組まれている。ユニットによって、利用者のお好きな食べ物に違いがあることに職員が気づき、「ユニットで同じメニューでなくてもいい」ことになったようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自分の関心のある研修など希望すれば受講することができる。日々利用者への働きかけも職員同士で話し合いながら自分達で考え行動できる環境にある。また勤務表の作成の際、勤務形態、希望や事情にも配慮している。	
			(外部評価) 全ての職員が年1回は必ず研修を受け入れるよう指導され職員が今 関心のある事がある際には自分で研修を選べるようになってきている。また研修報告を書くことにより内容の把握、全職員への周知を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 市内のグループホーム連絡会の参加や研修の機会を通じて交流を図りお祭りや観月会、運営推進会議等相互に参加しあっている。	
			(外部評価) 市内のグループホーム連絡会の参加や研修の機会を通じて交流を図りお祭りや観月会、運営推進会議等相互に参加しあっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内のグループホーム連絡会の参加や研修の機会を通じて交流を図りお祭りや観月会、運営推進会議等相互に参加しあっている。	
			(外部評価) 市内のグループホーム連絡会の参加や研修の機会を通じて交流を図りお祭りや観月会、運営推進会議等相互に参加しあっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前にご本人やご家族より、今までの暮らしぶりや、要望等詳しくお聞きし、入居後の不安を少しでも少なくし、安心して頂けるよう努めている。また入居後はご本人のちょっとした表情や行動に気を配り、安心して頂けるような声掛けをしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が来所された際は話し易い雰囲気ですぐに接し不安に思われたり求められている事柄をゆっくりとお聞きしている。又ホームでの様子をお伝えすることで安心して頂けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人とご家族から現在の状況や生活歴、今希望されている事柄を詳しく伺いまず必要とされる支援を見極めその方にあったサービス内容の説明を行なっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事全般において一緒に仕事をしたれでできる事柄においてはおまかせし出来る喜びを一緒に共有している。野菜作りや昔ながらの料理をしたり教えて頂くことが多くよく相談している。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム内での行事へ参加呼びかけを行っておりご本人と一緒に過ごして頂くよう努めている。参加して頂いた際ご家族の方に近況報告を行ったり相談等行っている。またご家族へ毎月ポストカードの送付をしホーム内での様子をお伝えしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事に積極的に参加し馴染みの人との出会いを大切にしている。また入居前から利用している美容院へ行ったりして、馴染みの関係が途切れる事のないよう支援に努めている。以前住んでおられた地域にドライブに出掛けたりしている。 (外部評価) ご自宅の近所の方や馴染みの店の方に会えるよう、利用者とお出かけに行ったり、来ていただけるように支援されている。利用者のご自宅の近所の方が、秋になると利用者宅の柿の採り頃を知らせてくださり、職員と一緒に収穫に行かれる。その柿を使って、利用者ご本人が職員に「渋抜き」を教えてくださいとお願いすることが恒例となっている。ご家族が来られた時、タイミング等が合えば、食事にお誘いして、利用者と一緒に食事を楽しめるような場面を作っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) それぞれ認知、身体機能の差がある為、それによって孤立する方が出ないように職員が様子を見ながら間に入り支援している。孤立しやすい方はこちらからお誘いし、職員含め他者と関わりを持って頂く。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院により退所された方へのお見舞いをし、ご家族にお会いする機会があれば様子を伺ったり、相談しやすい雰囲気作りに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中で、好みや思い、希望を見出しその気持ちに添う事が出来る様支援している。又センター方式の活用、家族の方の話も参考にして支援するよう努めている。 (外部評価) 入居にあたり、利用者やご家族からこれまでの暮らしぶりや要望を聞き取り、又、以前のケアマネジャーからの情報提供書や、利用者の言動からも意向の把握に努めておられる。知人や利用している美容院の方からの情報は、ご家族が知らない一面を知る手がかりになっているようだ。生活歴は、ご家族に記入していただいたものを担当職員が整理して、アセスメント票は、1年に1回見直しをされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式の活用、家族の方の聞き取りにより、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の把握に努めている。又、面会者(親類、友人)にも話を聞かさせて頂けるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り時に暮らしの現状の情報は共有しており少しでもいつもと違った様子等あれば直ちにスタッフ間で話し合いをしている。又、毎日バイタルチェック、排泄記録を付けており心身状態の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>センター方式を一部活用し、本人の気持に添ったプランを作る努力をしている。又御家族が面会に来られた際には意見を伺いプランに反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々の担当職員は、介護計画の見直し時期が近くなると、意識的に利用者との会話を増やし、又、ご家族にも連絡を取り、双方の意向を聞くようにされている。それらをもとにして、職員間で話し合い、計画を立てておられる。「家に帰りたい」という思いを強く持っている利用者には、ご家族と相談して都合がよい日に帰宅できるよう、計画を立てておられた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別記録表(バイタル、排泄:尿便回数、食事、水分摂取量)を活用。又個別ケース記録には昼夜の様子を記入し本人の状態を把握しやすく、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人、ご家族の状況や希望に出来る限り対応出来る様、柔軟な支援サービスに取り組んでいる。例:個々の行きつけの美容院の利用。自宅、親類、友人宅に訪問する。ご家族と墓参り、法事など参加。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月のカラオケの会の開催。押し花等をボランティアの方の協力の元行っており、その作品を公民館、伊予銀のロビー展に出品し地域の方々と交流している。散歩、買い物等で地域の方と顔なじみになっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医が隣にある為、相談や連絡がいつでも取れる状態にしている。歯科や眼科など本人の希望する病院に行けるようにしている。	
			(外部評価) 利用者やご家族は、「隣接する母体医療機関で診てもらえると安心できる」と、入居時に変更される方が多い。母体医療機関は、利用者の体調に変化があるとすぐ往診に来てくれ、又、食欲が極端になくなると点滴に来てもらえたり、リハビリに通うこともできる。市立病院等に通院される場合には、ご家族が付き添われる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 受診時や2ヶ月に1回の看護師研修時などに利用者の状態を伝えている。夜間帯も変わった様子があれば看護師に連絡・報告をいつでも出来る状態にしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 職員が面会や話をしに行っている。家族や看護師から様子など聞き情報交換を行なっている	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に終末期、どう過ごしたいかを希望を聞いており、日頃から家族の方が面会に来られた時は様子を詳しく話している。状態が変わった際は、医師と本人・家族と話し合いを行ない、いつでも連携がとれる状態にしている。	
			(外部評価) 母体が医療機関であることや法人内に福祉施設があることに、今後のことについても安心できるというご家族が多い。「病院は嫌い」と意思表示される利用者もおられるが、事業所の普通浴槽での入浴が難しくなったり、医療の必要性が高くなると、医師とご家族との話し合いで入院や入所となることが多いようだ。 終末期のあり方についても、事業所理念にも照らしながら、利用者の「あたり前」に焦点を当てて、取り組みをすすめていかれてほしい。地域密着型サービス事業所の専門性や有用性を活かして、利用者の暮らし方の希望に沿った支援をすすめていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎月のミーティング時と2ヶ月1回の協力医療機関の看護師による研修会や訓練・緊急時のシミュレーションを行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、ユニット別で、日勤帯・夜勤帯の避難訓練を行なっている。年2回地域の方と消防署に協力をして頂き、消防訓練を行なっている。	利用者の状態等にも変化があることを踏まえて、さらに夜間時の災害等も想定して避難訓練を繰り返していかれてほしい。今後は、消防団の方のアドバイス等も受けながら、いざという時に地域と協力し合えるような体制を作っていかれてほしい。
			(外部評価) 年2回の避難訓練以外に、自主訓練を行っておられ、1分以上地震が続いた場合は、揺れが治まると同時に避難を開始するよう、申し合わせておられる。まずは、裏口を通して母体病院の3・4階に上り、さらに避難場所への移動は、車が無理な場合には、「リヤカー」を使用するという職員からの案も出ている。ご家族の来訪時等を捉えて、災害時の対応等を説明されているが、ご家族は、「自分の親の為に、若い職員が犠牲になるようなことはしてほしくない」と言われるようだ。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレなどの声掛けは、他者に気付かれないように工夫している。家族の方が来られた際や電話などは、希望に応じてプライバシーを尊重して、居室などに案内し、ゆっくり過ごして頂けるようにしている。	
			(外部評価) 丁寧な言葉遣いがよい利用者、ざっくばらんな方が関係がうまくいく利用者等、職員は、利用者によって話し方を変えて対応されている。靴下を何枚も重ねて履く方には、足浴してから枚数を加減されたり、服を脱ぐような方には、窓を少しすかせて外気を感じてもらって服を着てもらおう等、工夫しながら対応されている。失禁がみられる方には、トイレ使用時に蒸したタオルを手渡しして、衛生面とともに匂い等にも気配りし、周りの方達に気付かれないよう支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から親しみやすく感じてもらえるような声掛けや雰囲気作りをしている。職員に思いや希望を伝えやすいように、環境作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 昔ながらの一日のリズムを大切にするために一人ひとりの生き方をアセスメントし昔から楽しみにされていたことを希望によって取り入れていく。また職員側のペースにならないようにミーティング等で振り返りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしい衣服をご本人、家族等から聞くなどして把握するように努めている。またホームでは季節に合わせた服を自ら選択出来る様声掛けしたり工夫する。美容室は昔からの馴染みの店に行くなどしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立をもとに毎食野菜切りなどおかず作り等職員と一緒にしている。食後の後かたづけも一緒に手伝って頂いている。 (外部評価) 積極的に調理にかかわる方もおられるが、中には、気後れしてしまうような方もあり、職員が仲に入って作業をお願いする等、多くの利用者に活躍してもらえよう、場面作りをされている。調査訪問時には、昼食後、洗い物を率先して行っている利用者の様子がみられた。小柄な利用者の方には、少しテーブルが高過ぎようだったが、ご本人は、膝の上に食器を降ろして食べておられた。誕生日には、ご本人のお好きなメニューでお祝いされており、ちらし寿司のリクエストが多く、ちらし寿司を見ると利用者は、「今日は何かごと?」と聞かれるようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量、食事量等本人の摂取量を職員が一人ひとり把握しその量を支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎月協力歯科医療機関の歯科医師、歯科衛生士が来所し口腔内の指導等ホーム職員と利用者に行っている。毎食後歯磨きをするが自力で行うことが難しい方には誘導しできない部分を介助し清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 時々失敗が見られる方には排泄チェック表に排泄時間をつけ一人ひとりの排泄パターンの把握する。時間が空いているようなら声掛けしトイレ誘導を行なう、また出来る限り本人のペースに合わせ自立に向けた支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 昼食前、職員は、「もうすぐお昼です、体操までにトイレに行ってください」と全体に声をかけておられる。その後、個別の様子を見ながら、そっと声をかけて支援されている。失禁することが増えたような方には、尿取りパッドを勧めると、「これ私だけ？」と気にされることもあるが、職員は、他の方も使っていることを説明すると、ご本人は安心して使用されるようだ。居室に汚れた下着や衣服を入れるためのバケツを置いて、ご自分で交換できるようにしている方もいる。利用者の身体状況によっては、安全を優先して、「入らせて」と断ってからトイレの中まで付き添うようにされている。トイレ誘導時、利用者には、「トイレ」より「便所」という言葉の方が認識しやすいようである。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表をもとに個々の排泄状態に合わせた便秘予防を行っている。予防には冷たい牛乳、ヨーグルト、食物繊維の多い食品等を取り入れている。それによって自然排便を促すように努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 個々の入浴希望を聞きなるべくゆったりした入浴を支援している。</p> <p>(外部評価) 夜勤帯以外は、入浴の時間や回数も利用者の希望に沿うように取り組まれている。夏は、1日2回シャワーを浴びる方もおられる。仲良しの2人が一緒に入浴を楽しむこともある。入浴の誘いを断る方には、無理強いせず、間を空けたり、タイミングをみて声をかけ、支援につながるよう取り組まれている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの状態や体調に合わせ、日中はソファで横になるなどの工夫を行っている。また眠れない方は日中に散歩や体操などをして活動量を上げ就寝前には足浴をし安眠支援に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は一人ひとりの服薬を覚えている。事務所内に服薬リストがあり、いつでも確認できるようにしている。服薬の際には、ご本人の薬である事を確認し、目的等の説明をして服薬の支援をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴を参考に食事の準備・編み物・縫い物、歌を唱うなど楽しみながら継続できるように支援している。買い物に行ったり、パズルや体操などを行ない、気分転換できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 庭のベンチで日なたぼっこをしたり、散歩やドライブなど一人ひとりの状態や希望により出掛けている。また地域の行事にも積極的に参加をし、お墓参りなど家族の方のにも協力して頂き出掛けている。	
			(外部評価) 新聞広告を見て「買い物に行きたい」と希望される方、天気がいいと、「散歩に出かけたい」と希望される方、時には、「自然の風景をゆったり眺めたい」方等、利用者からはいろいろな外出の希望が出るため、ペースの合う方同士で外出できるよう支援されている。花見には、手作り弁当を持って出かけておられる。近くに商店街があり、仏壇に供える果物を買に行く方もおられ、職員が同行して支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの力の応じて、お金の所持の支援をしている。買い物等の支払いの際は、出来る限りご本人にして頂き、職員はそばで見守りながら支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙などは、利用者の希望により支援し、出来ない部分は職員がお手伝いをするようにしている。毎月家族に送付している近況報告には、ご自身で記入可能な方には記入できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居間のテレビの音量や室内の照明・日差しの明るさに気をつけている。季節の花を飾ったり、居間や廊下の壁面には、利用者と一緒で作成した作品や利用者の日常写真などを飾っている。</p> <p>(外部評価) 玄関横の畑で職員と一緒に手入れしたり、収穫を楽しむ利用者もいる。玄関や居間のあちらこちらに利用者と一緒に作ったひな人形を飾っておられたり、居間には、時間をかけて作ったチュールリップの大きな壁飾りを飾っておられた。テレビの周りや少し離れた場所にソファを配置しておられ、利用者は、それぞれにお気に入りの場所があり、調査訪問時には、みんなの動く気配や話し声の中で、うとうとされる方もみられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用空間では、ソファを置き、ゆったりテレビ観賞したり、時には横になったりとのんびりと過ごせるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室にはご本人が作られた小物や家族写真などを飾ったり、今まで使用されていたダンスや仏壇、テレビなどを持ち込み過ぎしやすいようにしている。</p> <p>(外部評価) ベッドとクローゼットは備え付けとなっており、ダンスや衣装ケース、仏壇やお位牌、加湿器やテレビ等が持ち込まれている。お位牌に供えるお水は、利用者が供えることができない折りには、職員が替わって供えておられる。壁には、お若い頃の白黒写真や、ご家族の写真を大きいサイズに引き伸ばして貼っておられる。調査訪問時は、雨降り洗濯ものを居室内に干しておられる方もみられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの力を把握し、混乱や失敗を防げるようにトイレの入口にはプレートをはり、浴室には、のれんをかけている。また、居間・廊下・浴室には手すりがあり、段差もない為、安全で自立した生活が送れるようになっている。</p>	